

海老名市から白石市や登別市への修学旅行の可能性

内野市長：交通の利便性が高くなっている中で、神奈川県ではさがみ縦貫道路（※1）という新しい道路を建設中です。そのインターチェンジが今年、海老名市にでき将来的には中央高速道路や関越自動車道、常磐自動車道そして東北自動車道とも接続します。

これによって都内を通るよりも、ものすごい時間短縮になります。今は白石市までバスで6時間かかりますが、それが4時間くらいになります。

そうすると、今まで海老名市の小学校が行く修学旅行の定番は日光です。

それをひとつ足を伸ばして白石市に一泊して仙台などへ行くという方法もあります。時間の面では今と変わりません。

中学校は京都・奈良、広島、今年は秋田にホームステイなど学校が自由に決めています。「なぜ秋田なの？宮城でいいんじゃないの？」という思いもあります。教育の分野へも広がっていくことで、学校の行事へも姉妹都市交流を組み込んでいくと、これはすごい効果があると思いますね。

小笠原市長：登別市では、修学旅行生の誘客に力を入れています。冬は九州や沖縄、四国へ、夏は横浜に営業に行きました。横浜は今の中学2年生は行き先が決まっているので、1年生の先生方に対して営業中です。今考えると海老名市がありましたよね。ただ、わたしが考えているのは、来ていただくばかりではなくて、来ても何かで還元しなくてはいけないということです。

修学旅行を通じた交流というものができれば、持ち帰ってじっくり話をしたいと考えています。

風間市長：白石市の中学校の修学旅行先は、東京や横浜といった関東です。

白石中学校が修学旅行で鎌倉に行くときは、海老名市の有馬中学校の生徒の皆さんに案内していただいています。

これには、下地として少年野球の交流があつて、修学旅行の中では交流が始まりました。姉妹都市交流というと、白石市と登別市、白石市と海老名市という形であり、海老名と登別は姉妹都市ではありません。3市が集まったことで「何かできないだろうか」というのが今後のひとつの課題だと思っております。

その中で、3市の小中学生が修学旅行でのつながりが出てくると、また新たな発展があるのではないかと思います。

この内野市長のお話は、白石市にとっても当市にとってもうれしいお話であり、実現できたなら素晴らしいことです。

小中学校生活の中で最大のイベントである修学旅行先が、当市や白石市であることは、将来の3市交流の新しい縁となる事業となっていくに違いありません。



※1 さがみ縦貫道路 東京圏の最も外側の環状道路として整備が進められている、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の一部。

東京都心に集中している自動車交通を分散し、都心の交通混雑を解消することを目的に計画された道路である。神奈川県では周辺道路の混雑解消や都市間の連携強化、産業の発展などが期待される重要な自動車専用道路であり、今年の春には、海老名インターチェンジ〜海老名ジャンクション間が開通する予定となっている。



▼さがみ縦貫道路の工事の様子